

令和元年度事業報告

第1 事業の概要

令和元年度の事業運営に当たっては、加入拡大のため農業共済制度の周知、並びに、新たな農業経営のセーフティネットとして2年目となる農業経営収入保険制度の普及推進を、N O S A I 組織を挙げて全力で取り組んだ。更に、各事業の損害評価の適正実施、効果的な損害防止事業の実施などに努めた。

その結果、引受関係では全体的には高齢化等による経営規模の縮小や廃業・収入保険事業への移行等もあり減少したが、園芸施設共済については、関係機関と連携し生産部会等への集団加入推進・未加入者推進と継続加入者の完全引受に努めた結果、引受面積の増加につながった。一方、建物共済においては、東日本大震災以降、自然災害への備えとして、総合共済は増加傾向にあるものの、火災共済は減少し、全事業の総共済金額は1兆1,504億円余で前年度対比96.7%となった。

なお、収入保険については、会議等での制度説明や戸別推進に取り組んだが、類似制度との関係、また、様子見の農業者が多く思うような結果が得られなかった。

一方、被害関係については、台風15号・台風19号で水稻・園芸施設及び建物に被害を受けた。台風以外では、なしに降雹による被害、乳用牛の乳房炎等の事故が発生した。建物共済は、火災事故が少なく支払額は大幅に減少した。全事業の支払共済金総額は12億4,055万円余で前年度対比85.6%となり被害の少ない年度であった。

また、損害防止事業として、加入者へ要望調査等を実施しニーズの把握に努め、効果的な損害の未然防止に努めた。

業務勘定では、収入は運営経費の必要額確保に努めたが、国庫事務費負担金が5億4,538万円余と前年より約4,284万円余減となり、収入計では16億2,583万円余となった。支出においては、業務の効率的運営に努め人件費・事務費・業務費等の経費節減を図り、収支無残が原則のため、収入との差額を将来の支所等建設の積立として建設引当金に繰り出し、総額で収支が一致している。

なお、損益計算書の事業収支においては、家畜共済勘定で不足金が生じたが、他の共済事業については、果樹共済・畑作物共済を除く事業で剰余金が生じた。

第2 引受・損害評価の実績

(1) 農作物共済関係

(引 受)

項目 区分		組合員数	引受面積	引受収量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
水 稲	一筆方式	人 14,211	a 1,218,271.6	kg 40,679,001	円 6,266,740,759	円 13,746,246	円 △ 2,273,873	円 11,472,373
	半相殺方式	556	15,207.7	615,149	101,499,585	182,900	△ 28,514	154,386
	全相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	品質方式	157	50,158.2	-	311,267,599	3,114,490	△ 1,695,066	1,419,424
	小計	14,924	1,283,637.5	41,294,150	6,679,507,943	17,043,636	△ 3,997,453	13,046,183
麦	平成31年産							
	一筆方式	439	347,178.4	9,560,949	938,968,488	9,150,489	6,656,932	15,807,421
	半相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	全相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	災害収入共済方式	284	304,877.0	-	1,648,106,236	37,895,131	15,753,937	53,649,068
麦	小計	723	652,055.4	9,560,949	2,587,074,724	47,045,620	22,410,869	69,456,489
	令和2年産							
	一筆方式	399	325,785.4	9,061,962	919,378,876	8,745,760	6,370,565	15,116,325
	半相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	全相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	災害収入共済方式	255	276,588.8	-	1,483,428,126	33,542,655	14,042,677	47,585,332
	小計	654	602,374.2	9,061,962	2,402,807,002	42,288,415	20,413,242	62,701,657

※麦 令和2年産については、決算時の引受内容を記入。

△: 納入保険料

○水 稲	・前年対比	引受組合員数:73.0%・引受面積:84.8%
	・引受概況	平成31年産の引受組合員数は14,924人で、前年より5,525人の減少、引受面積は12,836haで前年より2301haの減少となった。要因としては、任意加入となったことにより小規模作付農家の未加入や農家の高齢化等による作付中止、また収入保険移行により引受組合員数、引受面積ともに減少となった。
○麦	・前年対比	引受組合員数:90.5%・引受面積:92.4%
	・引受概況	平成31年産の引受実組合員数は723人で、前年より160人の減少、引受面積は6,521haで前年より422haの減少となった。要因としては、任意加入となったことによる未加入や農家の高齢化等による作付中止、また収入保険移行により引受組合員数、引受面積ともに減少となった。
		引受方式別では、組合員数割合で一筆方式が全体の95.2%、半相殺方式が3.7%、品質方式が1.1%となった。近年の気象災害による品質低下被害を受け、加入要件を満たす農家等に対し水稻品質方式への移行を推進した。また、青色申告を行っている農家等に対しては収入保険制度を含めた効果的な推進を行った。

(被 害)		項目 区分	被害組合員数	共済減収量	共済金	共 済 金 共済金額	備 考
水 稲	麦						
水 稲	一 筆 方 式	人	223	kg	円	%	
	半 相 殺 方 式		1	60,759	9,547,629	0.2	
	全 相 殺 方 式		-	52	8,580	0.0	
	品 質 方 式		72	-	-	-	
	小 計		296	60,811	18,722,544	6.0	
麦	一 筆 方 式	人	49	kg	円	%	
	半 相 殺 方 式		-	72,285	8,076,892	0.9	
	全 相 殺 方 式		-	-	-	-	
	災害収入共済方式		108	-	59,457,046	3.6	
	小 計		157	72,285	67,533,938	2.6	

- 水 稲 •被害概況 7月の低温、日照不足によって、生育が停滞し移植が遅いほ場ほど、茎数、穂数が少なくなつた。出穂期ごろに曇雨天が多く穂揃い、開花に日数を要したため、不稔穂及び未熟粒や死米の混入が多く、収量及び品質とも平年より劣つた。また台風19号による強風、大雨の影響で倒伏・冠(浸)水被害が発生。水が引かず収穫ができなく、引いた後も周辺圃場から稻わらや土砂の流入があり収穫できず減収となつた。また、水の引きが遅く浸かつてしまつて稲から穂発芽が発生して減収並びに品質の低下となつた。
なお、作柄については、12月10日公表の農林水産統計で作況指数98のやや不良となつた。
- 麦 •被害概況 3月24日、25日の凍霜害により広範囲で幼穂凍死や葉先枯れが発生した。被害の程度については、多くの地域で軽微であったが、中毛地域で被害が大きく、一部地域で二条大麦・六条大麦の収穫を断念し、小麦の一部でも影響が見られた。
なお、県技術支援課発表の「平成31年産小麦の作況と麦類の今後の技術対策(6月20日現在)」によると、県平均の作柄概況は「やや不良～不良」となつた。

区分	項目 支払月日	実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払共済金 共 済 金
			保険金	手持掛金 充 当 額	法定積立金 充 当 額	特別積立金 充 当 額	その他	
水 稲	令和年月日 01.12.25～ 02.3.27	円 28,278,753	円 6,128,689	円 13,046,183	円 9,103,881	円 0	円 0	% 100.0
麦	01.9.19～ 01.12.25	67,533,938	0	67,533,938	0	0	0	100.0

(損害防止)

水稻・麦の病害虫防除等の損害防止事業に19,618,290円を使用し、各支所において関係機関と連携し、防除薬剤等を加入者に配布した。
また、伊勢崎支所においては、水稻種もみ温湯消毒機の貸し出しを行い、水稻種もみの温湯消毒を行つた。

(2) 家畜共済関係

(引 受)

旧制度

項目 区分	有資格頭数	事業計画頭数	引受頭数	引受頭数 事業計画頭数	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
乳用牛等	頭	頭	頭	%	千円	円	円	円
子牛等			6	-	1,091	9,231	2,633	11,864
肉用牛等			3					
子牛等								
一般馬								
種豚								
肉豚								
乳用種雄牛								
肉用種雄牛								
種雄馬								
合 計	0	0	6	-	1,091	9,231	2,633	11,864

△: 納入保険料

○引受概況 旧制度は、令和元年9月を以て完了している。集計値は、令和元年9月までの追加引受に係るものである。

新制度

・死亡廃用共済

項目 区分	有資格頭數	事業計画頭數	引受頭數	引受頭數 事業計画頭數	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
搾乳牛	35,049	頭 29,378	頭 25,566	% 87.0	千円 6,555,257	円 152,738,951	円 152,672,325	円 305,411,276
育成乳牛 子牛等			10,438 14,908 349	70.0	2,760,472	9,060,224	9,029,254	18,089,478
繁殖雌牛	56,515	4,399	3,712	84.4	906,912	4,417,372	4,408,023	8,825,395
育成肥育牛 子牛等		23,497	18,169 1,833	77.3	4,751,721	26,933,399	26,882,939	53,816,338
種豚		57,854	7,240	105.7	414,500	499,038	328,321	827,359
合計		149,418	79,422	85.3	15,388,862	193,648,984	193,320,862	386,969,846

・疾病傷害共済

項目 区分	有資格頭數	事業計画頭數	引受頭數	引受頭數 事業計画頭數	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
乳用牛 子牛等	35,049	頭 24,781	頭 23,370 270	% 94.3	千円 391,518	円 144,298,528	円 144,294,825	円 288,593,353
肉用牛 子牛等			5,686 5,497 658	96.7	51,882	10,748,310	10,747,709	21,496,019
種豚	57,854	1,202	909	75.6	700	60,580	40,373	100,953
合計	57,854	31,669	30,704	97.0	444,100	155,107,418	155,082,907	310,190,325

・特定包括肉豚共済

項目 区分	有資格頭數	事業計画頭數	引受頭數	引受頭數 事業計画頭數	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
特定包括肉豚	516,285	52,162	44,507	% 85.3	千円 345,045	円 3,114,099	円 2,071,983	円 5,186,082

(事 故)

旧制度

項目 区分	死 廃 事 故				病 傷 事 故	
	死亡頭数	廃用頭数	総頭数	支払共済金	件 数	支払共済金
乳用牛等	頭 80	頭 26	頭 106	円 13,942,623	件 3,819	円 47,245,901
子牛等	15	0			151	
肉用牛等	13	1	14	1,281,646	377	
子牛等	10	0			88	5,037,551
一般馬	-	-	-	-	-	-
種豚	4	1	5	78,079	1	6,980
肉豚	9	-	9	54,508	0	0
乳用種雄牛	-	-	-	-	-	-
肉用種雄牛	-	-	-	-	-	-
種雄馬	-	-	-	-	-	-
合 計	106	28	134	15,356,856	4,197	52,290,432

○事故概況 旧制度は、令和元年9月を以て完了している。集計値は、令和元年9月事故分までのものである。

新制度

・死亡廃用共済

項目 区分	死亡頭数	廃用頭数	総頭数	支払共済金
搾乳牛	頭 1,225	頭 450	頭 1,675	円 300,941,462
育成乳牛	198	12	210	14,202,608
子牛等	156			
繁殖雌牛	39	3	42	6,696,622
育成肥育牛	550	14	564	48,974,192
子牛等	500	2		
種豚	19	1	20	339,736
合計	2,031	480	2,511	371,154,620

・疾病傷害共済

項目 区分	件 数	支払共済金
乳用牛	件 17,708	円 259,624,720
子牛等	491	
肉用牛	2,336	29,596,748
子牛等	1,328	
種豚	5	26,210
合計	20,049	289,247,678

・特定包括肉豚共済

項目 区分	死亡頭数	支払共済金
特定包括肉豚	頭 918	円 4,753,235

(損害防止)

実施種目		対象頭数又は回数	経費概算	摘要
特定損害防止		頭(回) 342	円 1,514,720	乳牛
一般 損害 防止	予防衛生措置	108,095	4,943,021	乳牛38,121頭、肉牛17,451頭、豚52,523頭
	講習会、講話会	-	-	

・特定損害防止事業(国補助事業)については、診療所において周産期疾患を中心に、乳房炎、運動器病、繁殖障害を対象に実施した。

・一般損害防止事業については、予防衛生措置のための薬剤等を配布した。

(診療所)

診療所名	職員数	※事業区域		診療件数		損害防止事業			摘要
		有資格頭数	引受頭数	共済事故	事故外	事故低減	特損	経費概算	
中央	人 2	頭	頭	頭 51	頭 5	頭(回) 0	頭(回) 101	円 418,750	
中部地区	6	122,861	52,788	1,718	318	0	115	478,780	
北部地区	5	35,010	11,641	1,447	275	0	126	617,190	

・事業区域加入頭数は、前年と比較して中部地区で微増し北部地区は減少した。診療件数は、中部地区家畜診療所管内・北部地区家畜診療所管内ともに增加了。

※主な事業区域 中部地区……前橋市・渋川市・榛東村・吉岡町
北部地区……沼田市・片品村・川場村・みなかみ町・昭和村

(3) 果樹共済関係

(引受)

年 産	区分	項目	組合員数	引受面積	標準収穫量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
りんご 平成31年産	ぶどう なし	半相殺 減収総合一般方式	人 -	a -	kg -	円 -	円 -	円 -	円 -
		樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 減収総合短縮方式	2	58.5	9,662	2,880,000	57,542	△ 1,965	55,577
		樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 特定危険方式	108	4,167.3	978,646	389,580,000	5,406,934	325,385	5,732,319
		樹園地単位 特定危険方式	1	61.8	12,539	3,890,000	59,588	16,018	75,606
		小計	111	4,287.6	1,000,847	396,350,000	5,524,064	339,438	5,863,502
			-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
なし 平成31年産	なし 平成31年産	半相殺 減収総合短縮方式	3	73.2	15,774	5,150,000	106,162	△ 49,366	56,796
		樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 特定危険方式	24	1,000.2	234,383	83,510,000	1,023,236	△ 431,885	591,351
		樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
		小計	27	1,073.4	250,157	88,660,000	1,129,398	△ 481,251	648,147
		合計	138	5,361.0	1,251,004	485,010,000	6,653,462	△ 141,813	6,511,649
			-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-

△: 納入保険料

○りんご

- ・前年対比
 - ・引受概況
 - ・前年対比
 - ・引受概況
- 引受組合員数: 89.5%・引受面積: 87.3%
- 収入保険移行及び高齢化による廃園により減少した。

○なし

- ・前年対比
 - ・引受概況
- 引受組合員数75.0%・引受面積56.9%
- 収入保険移行及び高齢化による廃園により減少した。

(被 告)

区分	項目	被害組合員数	共済減収量	共済金	共済金 共済金額	備 考
りんご	半相殺 減収総合一般方式	人 -	kg -	円 -	% -	
	樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	
	半相殺 減収総合短縮方式	1	2,218	373,000	0.1	
	樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	
	半相殺 特定危険方式	3	15,624	1,150,300	0.3	
	樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	
	小 計	4	17,842	1,523,300	0.4	
	ぶ ど う	-	-	-	-	
なし	半相殺 減収総合一般方式	-	-	-	-	
	樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	
	半相殺 減収総合短縮方式	-	-	-	-	
	樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	
	半相殺 特定危険方式	14	95,486	16,514,800	19.8	
	樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	
	小 計	14	95,486	16,514,800	18.6	
	合 計	18	113,328	18,038,100	3.7	

- りんご　・被害概況　　・5月の降ひようにより果実の損傷、裂傷となる被害が発生した。
 　・6月下旬から7月中旬の多雨により適宜防除ができず、炭疽病が発生し、果実が腐敗となる被害が発生した。
 　・台風19号の影響により果実の落果及び傷果となる被害が発生した。
- な し　・被害概況　　・5月の降ひようにより果実の損傷、裂傷となる被害が発生した。

(支 払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共済金支払財源				実支払共済金 共済金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	
りんご	半相殺 減収総合一般方式	令和年月日	円	円	-	-	-	円 %
	樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
	減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺 減収総合短縮方式	2.2.27	373,000	-	-	-	-	-
	特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
	樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺 特定危険方式	2.2.27	1,150,300	-	-	-	-	-
	樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
	小計	2.2.27	1,523,300	-	-	-	-	-
	ふじ	う	-	-	-	-	-	-
なし	半相殺 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
	樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺 減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
	樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺 特定危険方式	1.12.26	16,514,800	-	-	-	-	-
	樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
	特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
	小計	1.12.26	16,514,800	-	-	-	-	-
	合計	2.2.27	18,038,100	10,857,870	6,511,649	668,581	0	100.0

(損害防止)

りんご、なしの病害虫防除を目的として、1,064,660円を使用し、防除薬剤等を加入者に配布する損害防止事業を行った。
 また、果樹園地を対象に、2点の土壤診断(経費1,540円)を行った。

(参考:引受)

年 産	区分	項目	組合員数	引受面積	標準収穫量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
							kg	kg	円
り ん ご	半相殺	-	-	a	-	-	-	-	-
	減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-	-
	減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺	1	26.5	4,676	1,660,000	33,228	△ 1,200	32,028	
	減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	特定危険方式	83	3,044.2	696,724	279,640,000	3,831,199	224,972	4,056,171	
	樹園地単位	1	65.3	13,465	4,250,000	62,039	16,688	78,727	
	特定危険方式								
	小計	85	3,136.0	714,865	285,550,000	3,926,466	240,460	4,166,926	
な し	半相殺	-	-	-	-	-	-	-	-
	減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-	-
	減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺	3	76.8	15,849	5,240,000	100,888	△ 46,959	53,929	
	樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-	-
	減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	特定危険方式	18	700.4	154,152	55,070,000	716,922	△ 302,346	414,576	
	樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-	-
	特定危険方式								
	小計	21	777.2	170,001	60,310,000	817,810	△ 349,305	468,505	
	合計	106	3,913.2	884,866	345,860,000	4,744,276	△ 108,845	4,635,431	

△: 納入保険料

(4) 畑作物共済関係

区分 (引 受)	項目	組合員数	引受面積(大豆) 引受箱数(蚕繭)	引受収量 kg	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
								円
大豆	一筆方式	人 20	a 8,794.8	84,771	12,963,383	63,836		
	半相殺方式	-	-	-	-	-		
	全相殺方式	3	981.9	12,818	1,897,064	39,927		
小計	実 23	9,776.7	97,589	14,860,447	103,763			
蚕繭	春蚕繭	人 73	箱 324.60	9,386	22,364,030	34,033		
	初秋蚕繭	39	207.53	5,133	12,080,030	17,463		
	晚秋蚕繭	67	350.38	8,624	20,272,690	68,346		
小計	延 実 179	882.51	23,143	54,716,750	119,842			
合計				69,577,197	223,605	89,885	313,490	

大豆

- 前年対比 引受組合員数:92.0%・引受面積:88.3%
- 引受概況 引受方式別では、耕地単位に共済金が算出される一筆方式での加入が多く、面積比率で90.0%を占めている。

蚕繭

- 春蚕繭 前年対比 引受組合員数:85.9%・引受箱数83.4%
- 初秋蚕繭 前年対比 引受組合員数75.0%・引受箱数:82.6%
- 晚秋蚕繭 前年対比 引受組合員数:80.7%・引受箱数:80.5%
- ・引受概況 全蚕繭とも高齢化等により減少傾向にある。

△:納入保険料

(被 告)

区分		項目	被害組合員数	共済減収量	共済金	共済金額	備 考
大豆	一筆 方 式	人	2	kg 559	円 113,774	% 0.9	
	半相殺 方 式	-	-	-	-	-	
	全相殺 方 式	0	0	0	0	0.0	
	小計	実	2	559	113,774	0.8	
蚕繭	春蚕	繭	1	104	246,480	1.1	
	初秋蚕	繭	2	183	433,710	3.6	
	晚秋蚕	繭	2	139	329,430	1.6	
大豆 蚕繭	小計	延実	5	426	1,009,620	1.8	
	合計				1,123,394	1.6	

大豆

○被害概況 播種期の長雨による被害、10月12日から13日に通過した台風19号の豪雨により被害を受けた。

蚕繭

- 春蚕繭 •被害概況 薬剤による生理病の被害が発生した。
- 初秋蚕繭 •被害概況 猛暑によるストレスにより病原抵抗性が低下したことから細菌病の被害が発生した。
- 晚秋蚕繭 •被害概況 細菌病、生理病の被害が発生した。

(支 払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共済金支払財源				実支払共済金 共済金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	
大豆	一筆方式	令和年月日 2.3.6	円 113,774	円 -	円 -	円 -	円 -	円 %
	半相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	全相殺方式	-	0	-	-	-	-	-
	小計		113,774	-	-	-	-	-
蚕繭	春蚕繭	1.8.26	246,480	-	-	-	-	-
	初秋蚕繭	1.11.13	433,710	-	-	-	-	-
	晚秋蚕繭	1.12.11	329,430	-	-	-	-	-
	小計		1,009,620	-	-	-	-	-
合 計		1.8.26～ 2.3.6	1,123,394	0	313,490	809,904	0	100.0

(損害防止)

大豆 病害虫防除を目的として、総額348,943円を使用し、防除薬剤等を加入者に対し配布する損害防止事業を行つた。

蚕繭 養蚕経営の安定を目的に病害防除に471,634円を使用して、損害防止事業を行つた。

(6) 園芸施設共済関係

(引受)

施設区分	項目	組合員数	引受棟数	設置面積 棟	共済面積 千円	共済金額 千円	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
ガラス I類	人	-	-	a	-	-	-	-	-
" II類	147	194	2,530.3	3,138,891	2,450,183	6,860,774	2,851,085	9,711,859	
プラスチックハーフス I類	1	1	1.0	180	144	473	330	803	
" II類	2,010	11,116	23,468.2	4,541,668	3,608,874	46,360,504	△ 7,895,218	38,465,286	
" III類	433	560	6,621.4	3,089,482	2,392,738	17,501,697	3,399,547	20,901,244	
" IV類甲	287	400	4,125.1	2,961,870	2,297,411	10,772,100	2,838,381	13,610,481	
" IV類乙	224	283	3,171.7	2,369,475	1,861,206	5,433,604	1,211,390	6,644,994	
" V類	69	78	841.3	643,086	504,504	1,720,064	248,010	1,968,074	
" VI類	259	4,221	10,143.6	1,281,198	1,023,067	7,728,234	3,062,914	10,791,148	
" VII類	48	75	1,596.4	65,401	52,000	298,537	36,839	335,376	
合計	3,478	16,928	52,499.0	18,091,251	14,190,127	96,675,987	5,753,278	102,429,265	

△:納入保険料

○前年対比
○引受概況
引受組合員数:96.3%・引受棟数:104.4%・引受面積:100.6%
有資格者名簿を整備し、戸別訪問による引受推進を行った。高齢化による廃業や規模縮小、一般損害保険への切替により前年と比べる
と組合員数はやや減少したが、引受棟数・引受面積は増加した。

(被害)

施設区分	項目	被 害		損害の額		共 濟 金				合計 共済金額 %
		組合員数	棟 数	特 定 園芸施設	附着施設	施設内 農作物	撤去費用	特定園芸施 設復旧費用	附帯施設 復旧費用	
ガ ラ ス I 類	人	1	棟	円	円	円	円	円	円	-
" II 類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
プラスチックハウス I 類	4	4	1,907,371	102,793	519,200	745,483	0	0	158,420	1,525,896 0.1
" II 類	74	116	8,759,601	5,315,496	618,400	1,063,443	0	0	0	6,997,339 0.2
" III 類	30	32	10,962,984	1,319,327	418,901	6,353,215	0	0	0	8,091,443 0.3
" IV 類 甲	16	17	7,847,182	336,242	1,755,485	3,940,272	0	0	0	6,031,999 0.3
" IV 類 乙	10	11	5,753,827	0	94,400	4,508,658	0	0	0	4,603,058 0.2
" V 類	3	3	492,650	0	0	387,469	0	0	0	387,469 0.1
" VI 類	6	9	404,313	300,115	0	22,614	0	0	0	322,729 0.0
" VII 類	4	4	601,324	480,417	0	0	0	0	0	480,417 0.9
合 計	147	196	36,729,252	7,854,390	3,406,386	17,021,154	0	0	158,420	28,440,350 0.2

○被害概況　台風19号により、館林支所管内を中心においてべと病や黄化えぞ病等が発生した。水害による被害30棟に對し共済金11,687,383円の支払いとなつた。病虫害では、主に東部のキュウリにおいてべと病や黄化えぞ病等が発生した。なお、平成30年度の被害に対し、令和元年度に共済金692,255円を支払っている。また、保険金として584,121円が支払われた。

(支 払)

(損害防止)	共 濟 金 支 払 財 源				その他	実支払共済金 共 済 金 %
	実支払共済金 円	保険金 円	手持掛金 充当額 円	法定積立金 充当額 円		
28,440,350	1,291,059	27,149,291	0	0	0	100.0

損害の未然防止と発生した被害の拡大を防ぐため、5,338,701円の損害防止事業費で粘着補虫シートやビニール補修用テープ等の損害防止用品を加入者に配布した。

(7) 建物共済関係

(引受)

農家建物

区分	項目	引受棟数	共済金額 千円	共済掛金		1棟当たり 平均共済金額 円	保険料	保険手数料 円
				純共済掛金	賦課金			
総合共済		11,261	112,323,120	172,588,725	78,126,924	9,974,524	103,455,631	27,553,939
収容農産物Aタイプ	(1)		3,000	6,300	2,700	3,000,000	2,700	688
収容農産物Bタイプ								
火災共済		87,079	997,905,220	475,583,790	388,305,760	11,459,769	258,591,823	104,573,613
合計		98,340	1,110,231,340	648,178,815	466,435,384	11,289,723	362,050,154	132,128,240

○前年対比
○引受概況

- 引受棟数:96.3%・共済金額:96.4%
- ・総合共済は、自然災害が多発していることで火災共済から切り替える加入者や新規の加入者がおり、棟数で前年対比108.6%と増加する一方で、火災共済は、同対比95.0%で減少している。

(事故)

農家建物

区分	項目	事故棟数	共済金額 (<i>1</i>) 千円	支払共済金(口) 火災等		保険金 円	被害率 (口) / (<i>1</i>)	備考
				火災等	風水害等			
総合共済		209	2,398,200	15,397,428	49,849,493	19,573,986	2.7	
収容農産物	-	-	-	-	-	-	-	
火災共済		278	4,148,600	298,402,323	-	89,520,582	7.2	
合計		487	6,546,800	313,799,751	49,849,493	109,094,568	5.6	

○被害概況

次頁の原因別事故発生状況の支払共済金は、前年対比で火災が64.1%、拡張担保が70.5%、自然災害が107.7%で、全体で68.6%と減少した。

(原因別事故発生状況)

農家建物		事故原因別	事故棟数	共済金額(千円)	支払共済金(戸)	保険金円	被害率(戸)/(戸)	備考
火災	類焼	8	77,600	20,975,763	6,292,724	円	27.0	
	たき火の火	5	38,000	32,379,606	9,713,881		85.2	
	風呂釜・ボイラー	3	21,800	21,854,771	6,556,430		100.3	
	タバコの不始末	3	8,600	2,372,514	711,752		27.6	
	その他	19	219,900	197,256,046	59,176,807		89.7	
	火災計	38	365,900	274,838,700	82,451,594		75.1	
拡張担保	落雷	238	3,520,500	33,626,866	10,087,957		1.0	
	盗難によるき損・汚損	27	367,700	908,455	272,529		0.2	
	車両の飛び込み等	16	277,600	1,780,095	534,024		0.6	
	物体の落下・飛来等	9	155,000	862,029	258,606		0.6	
	給排水設備	8	241,200	1,783,606	535,079		0.7	
	拡張担保計	298	4,562,000	38,961,051	11,688,195		0.9	
自然災害		151	1,618,900	49,849,493	14,954,779		3.1	
収容農産物		0	0	0	0			
合計		487	6,546,800	363,649,244	109,094,568		5.6	